

いきいき健康術 第78回

『変形性膝関節症と人工膝関節について』

このコーナーは、町立病院・診療所の医師や専門職員が皆さんにお届けする健康情報コーナーです。今回の担当は、国保京丹波町病院和知診療所の整形外科医乾堅太郎先生。高齢化に伴って多く発症する変形性膝関節症と人工膝関節による治療に関するお話です。

膝の痛みにお悩みの方に

和知診療所で診察していると、膝の痛みで困っておられる方が多く来院されます。その中で最も多い疾患が、変形性膝関節症です。病気の原因は、関節軟骨の老化によることがほとんどです。関節軟骨が年齢とともに弾力性を失い、使い過ぎによりすり減り、膝関節が変形します。農作業をされている方が多いせいか、非常に変形の進んだ方が多く来院されます。

治療方法

症状が軽い場合は、大腿四頭筋強化訓練、関節可動域改善訓練などの運動器リハビリテーションを行ったり、膝を温めたりする物理療法を行います。足底板や膝装具を作成することもあります。

また、痛みのコントロールには薬を使います。痛み止めの内服薬や外用薬を使ったり、膝関節内にヒアルロン酸の注射などを行ったりします。

このような治療でも痛みが軽快しない場合は、手術治療を検討します。変形が高度な場合は、人工膝関節置換術を行います。

人工膝関節

手術を希望された方は、手術の三〜四週前からご自身の血液を貯め、術中の出血に備えます。入院期間は約一カ月程度です。入院中に、入浴、階段昇降、畳での生活、トイレ動作などの日常生活動作について



整形外科 医師
乾 堅太郎 先生 (和知診療所)

訓練し、多くの方が痛みなく歩けるようになって退院されます。個人差がありますが、十年間ゆるみがなく日常生活が過ごせる可能性が九五%以上あるといわれています。長い人の場合二十年も三十年ももつ方もいます。ゆるみが生じた場合は再手術を行い、インプラント(人工関節)を交換します。

膝の痛みでお悩みの方は、お気軽に整形外科までご相談ください。

和知診療所

和知診療所では、訪問診察を水曜日の午後に行っています。また、訪問看護につきましても随時行っていますのでご相談ください。

☎ 84-11112